

第二十八回 岳 朋 会 書 作 展 ○五・四・一九日(火)から二四日(日)

会場 静岡市清水文化センター

主催・書道研究岳朋会主宰 Ⅱ 広住花岳(書)・読売書法会幹事

Ⅱ 廣住翠豊(墨彩画)・NHK文化センター静岡教室講師
<http://www.geocities.jp/hrozuniks/>

後援・静岡市教育委員会 静岡新聞社・静岡放送 静岡県書道教授会

・NHK文化センター静岡教室 書三昧本部 全日本書文化振興連盟

郷土の近代短歌シリーズⅩ 中村秋香を書く 出品目録

国文学者・中村秋香(一八四一〜一九一〇)御歌所寄人 明治時代に古今和歌集等の注釈書や国語読本を著作。東京音楽学校講師も勤め多数の文部省唱歌、各地の校歌、軍歌、歌謡を作詞。「雪」 滝 廉太郎作曲などが知られている。清水興津に一九〇二年、松の下庵と名付けて晩年を過ごし一九一〇年、興津で永眠。この時の著述は子の中村春二(成蹊学園創始者)によって出版された不盡酒屋遺稿に収められている。

松の下庵で詠んだ短歌は三七首、新体詩一編。 本展ではこの内、短歌、十三首。新体詩より一句を努めて変体仮名を使わず読み易い「漢字かな交じり書」として小画仙紙半切や全半懐紙に書き、軸額装にして展示。その他、漢字、かな、臨書、十三点等、書作品、十八名、二七点。その他、はがき絵等八名、十九点、合計二十九名、四十六点展示。

▲テーマ作品

1. 我ながら思へばあやしひとりみのなどかくばかりたのしかるらん 松の下庵にてよめる
2. 油畫によく似しそらのけしきかな入日つつむやまのは雲 漫 吟
3. 青海原ふりさけみればはてもなしいかに渡りし年は来つらむ 新年の海
4. あかねさす入日沈みてふねのほの白きにかへる夕暮れのおき 漫 吟
5. わが軒の柳のいとなぎけり三保の沖ゆくあまのつりぶね 漫 吟
6. この庵のよにうれしきは門さして清き月日をおくるなりけり 一月一日に
7. わだのはらめぐればかへる舟路よりけさ年波もたちぞめにけり 新年の海
8. おもしろきものの調をさく日哉なぎさのつづみのきの琴のね 波風はげしき日
9. のどけき哉 新体詩より
10. 梓弓やぎまの里にとひくればいかにし昔ぞ戀しかるらん 八木間村に散歩して
11. 東の海たつとし波や洗ひけんのぼる朝日かげあらたなり 新年の海
12. 何となく今朝は心ぞのどかなるなほ世の中やわすれざるらん 一月一日に
13. 松にふく風はかすみにつつまれて眠もよほすなみのおとかな 漫 吟
14. 何事もあるにまかする窓なれどひとつ足らぬは月日なりけり 漫 吟

▲テーマ外作品

1. 万葉三首 額 8. 臨書譜 帖
2. 臨高野切第三種 卷子 9. 臨呉昌碩 石鼓文 額
3. 臨粘葉本和漢朗詠集 冊 10. 夢 額
4. 山家五番歌合抄 帖 11. 命 額
5. 万葉二種 額 12. 道 額
6. 春野の 帖 13. 徳 額
7. 清少納言の歌 軸

▲墨彩画、はがき絵出品者名 廣住翠豊他七名

*参考資料 ・清水と文学 清水文学散歩の会編刊 昭和四十年・清水・静岡の近代短歌を書く 書道研究岳朋会 平成九年

・不盡酒屋遺稿 中邨春二編 前川文栄堂 明治四十四年